

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-323438

(43) 公開日 平成 6 年 (1994) 11 月 25 日

(51) Int. Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
F16J 15/06	A			
C09K 3/10	R			
	C			
	Q			

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平5-106353

(22) 出願日 平成 5 年 (1993) 5 月 7 日

(71) 出願人 000001052

株式会社クボタ

大阪府大阪市浪速区敷津東一丁目 2 番 47 号

(72) 発明者 信田 光夫

大阪府堺市石津北町 64 番地 株式会社クボ
タ堺製造所内

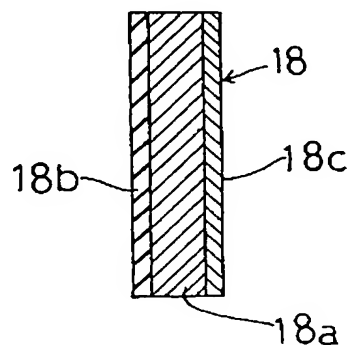
(74) 代理人 弁理士 北村 修

(54) 【発明の名称】 ガスケット

(57) 【要約】

【目的】 接合部に介在したガスケットが接合部分解時に破れるのを防止するとともに、接合部分解時にガスケットを落下させて汚損するのを防止する。

【構成】 ガスケット本体 18 a における一方のシール面にゴム層 18 b を積層するとともに、他方のシール面にグラファイト等の非粘着材層 18 c を積層し、両シール面の粘着性に差異を与える。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ガスケット本体（18a）における両シール面の粘着性に差異を与えてあるガスケット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、伝動ケースとこれに着脱されるカバーケースとの接合部など、比較的頻繁に開閉される部分のシールに好適なガスケットに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、ケース接合部に介在されるガスケットとしては、ガスケット本体の両シール面（表裏面）に非粘着材をコーティングしたものや、コーティングを施さないものが使用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、コーティングを施さないものは、シール作用時の締付けにより強固にカバーやケースなどに付着し、接合部を分解する時に外し難くなることがあり、かつ、ガスケットが部分的にカバーケースや伝動ケース本体の両方に付着した状態で接合部を分解するとガスケットが破れることがあった。また、両シール面を非粘着材でコーティングしたものは、上記不具合は少なくなる反面、接合部を分解した時にガスケットが落下しやすく、作業場床面の汚れが付着して再使用時にシール性が損なわれるおそれがあった。本発明の目的は、ガスケットの破損が無い状態でケース接合部を容易に分解することができ、かつ、その際、ガスケットを落下して汚損されるのを未然に回避できるようにする点にある。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明の特徴構成は、ガスケット本体における両シール面の粘着性に差異を与えたことにある。

【0005】

【作用】つまり、粘着性の高いシール面がこれに対向するケース接合面に付着し、粘着性の低いシール面がこれに対向するケース接合面から容易に外れ、従って、粘着性の低いシール面の作用で接合部を容易に分解することができるとともに、ガスケットの破損を確実に防止でき、しかも、粘着性の高いシール面の作用でガスケットの落下を確実に防止して再使用時のシール性劣化を回避できる。

【0006】

【発明の効果】その結果、ガスケットの破損が無い状態でケース接合部を容易に分解することができるとともに、その際のガスケットの落下を未然に回避できる、殊に頻繁に開閉されるケース接合部などのシールに好適なガスケットを提供できるようになった。

【0007】

【実施例】図 1 に、本発明に係るガスケットを使用した伝動用ケースの一例として、歩行型 4 条植え田植機にお

ける植付け装置用伝動ケースが示されている。詳述すると、入力軸 1 から中央 2 条の植付け爪 2 に対する爪駆動軸 3 に動力伝達した後、この爪駆動軸 3 にチェーン 4、中間駆動軸 5、及び、チェーン 6 を介して連動された爪駆動軸 7 で外側 2 条の植付け爪 2 を駆動するようにし、更に、爪駆動軸 3 にチェーン 4 を介して連動させた中間軸 8 と螺旋軸 9 とを一对のギヤ 10、11 を介して連動させ、この螺旋軸 9 の無端螺旋溝 12 に係合する係合部材 13 を備えた横送り軸 14 を伝動ケース 15 の左右に突出させて、その両端を苗のせ台 16 に連結し、もって、植付け爪 2 の作動と同期して苗のせ台 16 を一定ストロークで往復横送りするように構成してある。中間軸 8 と螺旋軸 9 を連動するギヤ 10、11 を夫々中間軸 8 と螺旋軸 9 の異径端部に抜き差し自在かつ取り替え装着可能に嵌着し、伝動ケース 15 の側面に着脱自在にボルト連結したカバーケース 17 の内面で両ギヤ 10、11 を抜け止めし、両ギヤ 10、11 の入替えによる変速比変更によって植付け爪 2 の回転速度に対する苗載せ台 16 の横移動速度を変更し、植付け爪 2 による一回の苗取り出し幅を変更できるように構成してある。伝動ケース 15 とカバーケース 17 との接合部にはガスケット 18 を介装してある。このガスケット 18 は、図 3 に示すように、ガスケット本体 18a のシール面のうち一方（この例ではカバーケース 17 側）にゴム層 18b を積層するとともに、他方（この例ではケース 15 側）にグラファイト等の非粘着材層 18c を積層し、ガスケット 18 の両シール面の粘着性に差を与えてある。従って、この場合は、ガスケット 18 はカバーケース 17 側に接着しやすく、ケース 15 側に対しては容易に剥離する状態となる。

【0008】〔別実施例〕ゴム層 18b をケース 15 に接触させて、カバーケース 17 を取り外した時にガスケット 18 をケース 15 側に付着させるように構成してもよい。ガスケット本体 18a の両シール面における粘着性に差異を与える手段としては、上記構成に限らず、例えば、粘着度の異なる積層材をガスケット本体 18a の両面のそれぞれ形成してもよく、かつ、この積層材の材質は適宜選択すればよい。要は、ガスケット本体 18a の両シール面における粘着性に差異を与える表面処理を施せばよいのである。

【0009】尚、特許請求の範囲の項に図面との対照を便利にするために符号を記すが、該記入により本発明は添付図面の構成に限定されるものではない。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 苗植付け装置駆動部の展開断面図

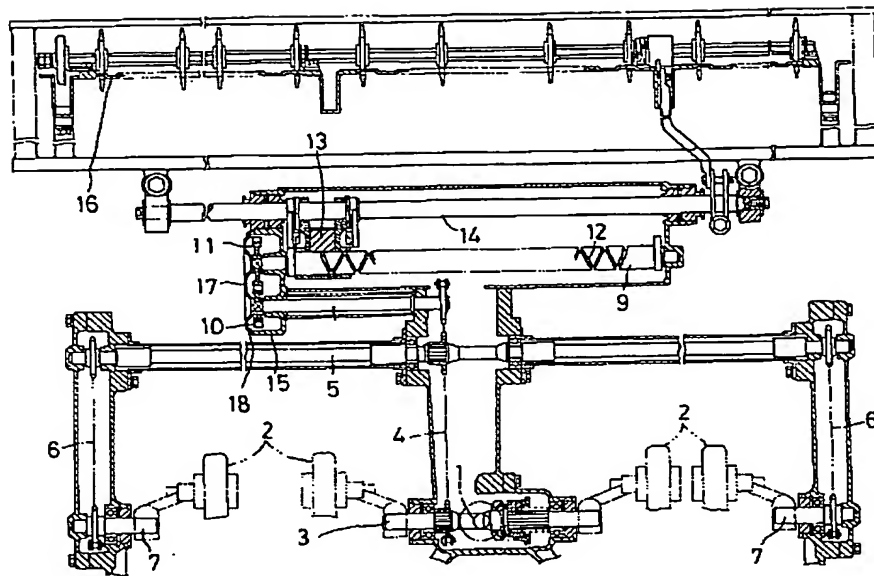
【図 2】 要部拡大断面図

【図 3】 ガスケットの部分断面図

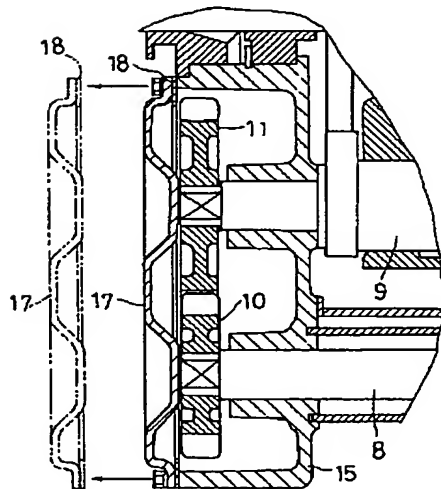
【符号の説明】

18a ガスケット本体

【図1】



【図2】



【図3】

